



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 2学期がスタートしました

本日から2学期がスタートしました。8月8日(木)に、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表され、大きな衝撃が走りました。15日には、注意報が解除されましたが、今後の動きに気をつけていかなければいけないと考えています。

始業式では、まず地震はいつ起こるかかわからないので、自分の命は自分で守ると自分に言い聞かせて行動することを心に留めておくことについて話しました。シェイクアウト訓練で行っている、「身を低くすること」「頭を守ること」「揺れがおさまるまで動かないこと」について、スライドを見せながら確認していきました。御家庭でも大きな地震があった時に、どのように避難したらいいのか、避難場所の確認等、話し合っていることと思います。事前の確認をして備えておくことを意識的に行うことは必要であると考えます。

その後、パリで開催されたオリンピックでのニュースを見て考えさせられたことについて話をしました。二人の選手に触れました。柔道の阿部詩選手とレスリングの須崎優衣選手です。二人とも、東京オリンピックで金メダルを取った選手。しかし今回のオリンピックで、阿部選手は2回戦負けで、須崎選手は1回戦負け。パリオリンピックで連覇をねらい、この大会に臨んでいたにもかかわらずまさかの負けで、号泣する阿部選手。呆然とする須崎選手。しかし、ここで終わるのではなく、阿部選手は、6日後に行われた団体戦の試合に臨み、見事に勝利しました。須崎選手も敗者復活戦に出場することができ、銅メダ

ルを獲得しました。なぜ気持ちを立て直すことができたのかを知りたくて、様々なニュースを調べていきました。選手を支えたことの一つとなっていたことは周囲からの温かな言葉や応援があったからであり、そのことが気持ちを前向きに変えて一歩踏み出す力が引き出されたのだということを知ることができました。

「人から出る言葉には、力がある」と子供たちに伝えました。悲しんでいる人、寂しい思いをしている人が前を向いて歩いて行けるようにしていく力が言葉にはあること。「大丈夫?」「がんばろう」「どんまい」「失敗は誰にでもあるよ」「応援しているよ」「ごめんね」「ありがとう」…、あなたが言われて嬉しい言葉、あなたが言われて元気になる言葉、あなたが言われたら前を向くことができる言葉はどんな言葉なのか、自分が言われたら…ということを考えて、言葉を大切にしていましようと話しました。

次の詩を紹介し、2学期も、温かな言葉 優しい言葉、きれいな言葉をたくさん伝え合って、笑顔あふれる学校をみんなで創っていきましょうと結びました。

ありがとうを いっぱい 言った  
笑顔が いっぱい 返ってきた

「ありがとう」は 魔法の言葉。

自分が変わった。

周りの人が変わった。

今まで

気にしなかったことに

目がいくようになった。

「命の授業 心のエピソードカレンダー

塚越 勇人」